

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	文観	-	5	鎌倉芸術館管理運営事業				☐ 法定受託事務	
所管課	文化観光部 文化課				評価者	文化課長 鋤柄 雅之			
一般	会計	款	10	項	5	目	55		
総合計画上の位置付け	分野名	暮らしの共創			施策の方針名		芸術文化		

1 事業の目的

対象	市民等	意図	鎌倉市の芸術文化の拠点である鎌倉芸術館の機能を発揮できるように指定管理者制度を導入し、施設の管理運営を行うとともに、施設・設備の修繕実施により予防保全を図るため。
効果	指定管理者制度導入により施設の利用貸し出し、鑑賞機会の提供や施設の維持管理など鎌倉芸術館の一体的管理に基づく効率的な運営を図り、予防保全により施設・設備の良好な維持を図る。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 (事業終了予定年度： 年度) ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	鎌倉芸術館指定管理、維持修繕	鎌倉芸術館指定管理、指定管理者選定、維持修繕	鎌倉芸術館指定管理、維持修繕
予算額（千円）	303,572	351,671	
国県支出金			
地方債			
その他	5,208	5,934	
一般財源	298,364	345,737	0
当初人員配置数	1.9	2.5	0.0
人件費（千円）	9,064	14,725	0
事業実績	鎌倉芸術館指定管理、維持修繕		
決算額（千円）	300,458		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	300,458	0	0
人員配置実績数	1.9	0.0	0.0
人件費（千円）	8,836	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名	鎌倉芸術館施設回転率 (利用回数計／利用可能区分数)	%	62.5	↗	66.4		
活1	実績につながる活動	ホール・ギャラリー等の貸し出しを行う				-		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・近隣市の文化施設が休館中のため、利用者・来館者とともに一定の影響があった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	近隣市の文化施設の休館により、鎌倉芸術館への利用需要が高まったものの、夜間区分の利用が伸びず施設回転率はほぼ横ばいで推移した。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No (最大3つ)
成1	貸館利用者の満足度	%	R8年度から実施	↗	未実施			1
成2	新規利用団体数（ホール・ギャラリーの初利用者の数）	団体	57	↗	87			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・近隣市の文化施設が休館中のため、利用者・来館者とともに一定の影響があった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・近隣市の文化施設の休館を背景に、当施設への利用需要が高まり、新規利用者数（ホール・ギャラリーの初利用者数）の増加につながった。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	施設回転率（活動結果指標）のみをもって、近隣市の文化施設が相次いで休館していることにより鎌倉芸術館の利用需要が高まっているとは判断できないものの、成果指標の新規利用団体数が増加していることから利用需要は高まっているものと考ええる。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☐ 市	☐ 国・県	☒ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
		関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性	公平性	受益者負担	☒ 導入済	☐ 導入予定	☐ 導入できない
		評価実施年度の方向性 ⇒	評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 事業へ統合	
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☐ ① 予算規模は現状維持とする ☒ ② 予算規模は拡大する ☐ ③ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	鎌倉芸術館への利用需要は、近隣市の文化施設の休館を背景に、高まっているものと考えられる。施設回転率はほぼ横ばいで推移したが、新規利用団体数（ホール・ギャラリーの初利用者数）の増加が見られ、一定の成果が認められる。今後も、鎌倉の芸術文化発信拠点として、適切な施設管理・運営を継続していく。			上位施策への寄与度 A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項		【大ホール】施設利用率（％）（令和7年度実績）				
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	小田原市	横須賀市	
他市実績	87.0%	78.5%	78.4%	69.5%	休館中	

比較事項		【大ホール】利用者数（人）（令和7年度実績）				
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	小田原市	横須賀市	
他市実績	224,258	111,246	157,847	98,895	休館中	

比較事項		【大ホール】利用可能日数（日）（令和7年度実績）				
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	小田原市	横須賀市	
他市実績	293	289	310	335	休館中	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	近隣市町村の同種の施設と比較し、競争上の位置関係を客観的に把握するため施設利用率等を比較する。鎌倉芸術館は、他市に比べて利用者数が多い施設と言えるが、大ホールの利用率は他市と比較し、同等程度である。					